

導入事例 計量管理システム

産廃処理向けシステムと計量現場の情報を
集約、二度手間ゼロにした取り組みとは？

廃棄物の受け入れ量が年々増加しているアイザック様。計量待ちトラックの渋滞を解消するため、紙伝票による管理だった計量実績、目視の積載物確認をデジタル化し集約。効率化に成功した事例をご紹介します。

株式会社アイザック 様

産業廃棄物の処理を行う環境事業と木箱製造業をルーツとするパッケージ事業を展開。化学処理、焼却処理、生物処理、混練処理など、様々なプラントを保有。あらゆる廃棄物処理に対応しています。

取材協力

生産部生産管理課生産管理係
係長 青木 琢朗 様

導入事例
完全版を見る



課題

- ・計量トラック 300 台 / 日の渋滞解消
- ・計量オペレーターの業務効率化
- ・計量器増設に対応できる体制の構築

効果

- ・情報の一元化で二度手間を撤廃
- ・月 20 時間超の作業削減
- ・遠隔受付で少人数でも運用可能に

一検討のきっかけを教えてくださいー

当社への産業廃棄物の入荷量が、徐々に増加してきたことがきっかけです。国内における産業廃棄物の排出量自体は、ここ 20 数年横ばいですが、県内外の同業他社が廃業して減少した影響で、受入体制の見直しが必要になり、対策を検討しました。

一どのような課題をお持ちでしたか？ー

計量待ちのトラックで当社構内が大渋滞していました。廃棄物の重量は①トラック総重量②荷下ろし後の空車重量、の順に計量し、①②の差分算出で正味量を求めます。複数種類の廃棄物を混載するトラックは、さらに計量方法が複雑になります。1 日のトラック受入台数は平均で約 150 台。多い時には約 300 台、計量回数は約 500 回

にものぼりますが、当時計量器は 2 台のみ。計量・荷下ろしで車両移動が必要な上、計量結果は計量器の中に保存されるので、差分を算出するには同じ計量器に戻る必要も。トラックの順路が非効率でした。

また、産廃処理の予定・実績管理システムと計量器は連動せず、取引予定と計量実績を計量票へ 2 度に分け印刷、実績をシステムに手入力するなど、計量オペレーターの作業に二度手間が生じていました。



一採用の決め手を教えてくださいー

HCS さんの提案が的確だったことです。当社の意向を汲み取り、いくつかの対応パターンを提示してくれました。計量オペレーターからは「打ち合わせを重ねる中で当社も気づかないような提案もあり、本当によかった」との声を聞いています。

一効果はいかがですか？ー

情報の一元化により、計量実績が共有され、どこで計量しても差分算出できるようになりました。さらに計量器を 4 台に増設、トラックの順路が柔軟になり、混雑は緩

和。ドライバーにも好評です。

また、業務ノウハウの必要な計量オペレーターを増員することなく、計量現場の誘導員配置のみで計量器 4 台の運用を実現。以前は計量器ごとに計量オペレーターを配置していましたが、計量器周辺にネットワークカメラを設置、遠隔でトラック受付対応ができます。

未連動だった産廃業システムと計量器を連動させ、計量オペレーターの二度手間を撤廃。月 20 時間超の作業削減効果がありました。計量完了時には、結果がシステムに自動登録、計量票は取引情報と重量情報の一括印字が可能です。

一今後の取り組みや展望を教えてくださいー

計量完了後に紙の計量票を発行していますが、ドライバーへの手渡しが原因で、トラックの待機が発生。電子化による効率化の方法を HCS さんに相談中です。お客様からの要望に応じて管理部で計量票控えをスキャンしメール送付することもあり、これもペーパーレス運用にしたいです。

izak 株式会社アイザック

変わらない信念と共に、変わり続ける企業として

www.izak.co.jp

業務の二度手間をゼロに。

人手不足を解消できる、具体策セミナー
～ 販売管理 × ノーコード × AI 編 ～

企業のIT化が浸透した今、『70%の企業がExcelでのデータ管理に「限界」』[※]を感じています。貴重な社員の時間を本来の業務に注力できるよう、業務プロセス変革～人手不足解消を実現しませんか？

[セミナーの詳細を見る](#) >

次のお悩みがある方、必見！

「販売管理の周辺業務に
Excel や **ITツール** を活用
しているけど、楽にならない…」



6/12(水)、『HCSソリューションフェア2024』を開催しました。

5年ぶりの開催にもかかわらず、前回を上回る750名さまがご来場。今回好評だった企画の一つ、DX セミナー「**生成AIで変わるDXの最前線**」のオンデマンド配信を開始しました。「満席で事前予約できなかった」「セミナーに参加したけど、もう一度見たい!」という方々にオススメです。動画公開期間は、9月30日(月)まで。ぜひお気軽にお申し込みください。

動画を視聴する



※ 資料：KUIX「Excelで行っているデータ管理業務の実体」調査(2023/4/11)

HCSのよこがお

金融ビジネス本部
金融システム部

いけだ ゆうま
池田 悠真 さん

1日でも早くプロジェクトチームや、お客さまに貢献できるようにスキルアップを目指したいです。

Q. 業務内容を教えてください。

大手金融機関の勘定系システム構築プロジェクトで、プログラム設計・開発・テストの業務に携わっています。

入社から約2年間、SEとして全国各地の金融機関さまを訪問し、要件定義や納品といった業務を行っていましたが、今年の4月からは開発業務をメイン

ンに担当しています。

プログラムを実装することは初挑戦のため苦戦する毎日ですが、構築したシステムが想定どおりに動いた瞬間は達成感が大きく、自分自身のスキル向上を実感できています。

開発業務に関してはまだまだわからないことが多いため日々勉強ですが、

Q. 最近のMyニュースはありますか。

4年前から乗りたいかった
念願の車を購入しました。

7月上旬に納車なので、
愛車に乗っていろいろな
ところに出かけるのが今
からとても楽しみです！



↑ 愛車と共に。

編集後記

前回の2019年以来5年ぶりの開催となった「第17回HCSソリューションフェア2024」は天候にも恵まれ、おかげさまで大盛況となりました。ご来場の皆様には厚く御礼申し上げます。来場者様アンケートによると、多くの方が最も関心のあるテーマとして「生成AIの業務活用」を挙げています。関連ブースにも多数の方にお立ち寄りいただきました。本フェアのテーマ「AIとあたらしいソリューションで描くビジネス変革」、貴社のビジネス変革を弊社がご支援いたします。フェアご来場の方もそうでない方も「生成AIの業務活用」については、弊社営業までお気軽にご相談ください。(やまだ)

皆さまのご意見をお聞かせください

より役立つ情報掲載のため、皆さまの「気になる」「知りたい」コト、掲載記事のご感想などをぜひお聞かせください。

『HCS NewsLetter ご意見箱』への投稿はこちら→



全力パートナー

北陸コンピュータ・サービス株式会社

NewsLetter 編集室

TEL : (076)495-9824 HP : <https://www.hcs.co.jp/>



※ ※ イラストの一部は pikisuperstar/Freepik (Freepik.com) のリソースを使用してデザインされています。

本ニュースレターに記載の情報はすべて編集時点のものです。情報の内容やURLなどが変更されている場合があります。予めご了承ください。また、本文中の商品名・会社名は各社の商標または登録商標です。